

## 【生活指導】での活用事例

(小学校第1学年)

### 【活用した資料】

- 小学校版「心あかるく」 p.104～p.105 第三章 「⑫ やくそくや きまりを まもる」

### 【学習指導要領に示されている道徳の内容】

- 4－(1)「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。」

### ○ 約束やきまりを守るきっかけとして

1年生の児童は、毎日、学校生活の様々な約束やきまりを学び、覚え、実践しています。約束やきまりは、集団生活の中で互いが気持ちよく生活するために大切なものです。学校の教育活動全体で行う道徳教育の一環として、生活指導でも学校生活の様々なきまりを守るよう目標を立てています。月目標・週目標等、学校により様々ですが、学級担任は朝の会等で、目標に対する指導を必ず行っていることと思います。「校庭の使い方」「遊具の使い方」「ボールや一輪車などの使い方」「水道の使い方」「掃除道具の使い方」など場面に合わせて、『心あかるく』を活用しながら、意識化を図ります。『心あかるく』第三章は、短い時間でも書き込みができるように配慮して作られているので、ちょっとした場面でもすぐに活用することができます。

低学年の児童は、その発達の段階から、意識を持続するのが難しい面があります。すぐに忘れてしまったり、忘れていなくても自分中心に考えてしまったりするものです。そこで、シールを活用する方法もあります。週目標「あそびどうぐをきちんとかたづけましょう。」というきまりが守れた児童には『心あかるく』p.104～p.105「⑫ やくそくや きまりを まもる」の関連する挿絵のところにシールを貼らせました。シールは休み時間が終わって教室に戻ってきた児童が自由に取れるようにしておき、きまりを守ることができたら1枚取って貼るように指導しました。また、別の週目標「そうじどうぐをたいせつにしましょう。」では、前回のシールとは色を変えて、同じように取り組ませました。このような工夫をすることによって、約束やきまりを意識して学校生活を送ることができる児童を育てていきます。

### ○ 成長の記録としての「心あかるく」

いつも児童の手元に『心あかるく』があることで、時間をかけずに、上の指導事例で示したような取組が可能になります。シールを貼らせたりワークシートに記入させたりするなど、担任のアイデア次第で、『心あかるく』を、児童の成長の記録にすることもできます。